

# 小 さい 畑

東京女子高等師範學校園藝室

大 岩 金

四六

しばらく振で何か季節の園藝をこの依頼を受けたのでございませうが、いざ書くに成りますと何と申してよいか迷ふのでございませう。

日頃幼稚園の戶外遊園、運動場、又は保育室の窓下など、ごんなにして明るく氣持のよい且つ時局に相應しい栽植をしたものか、ご心に掛けながらも、さしたる名案のない事をおはづかしく思ふのであります。

しかし幸にして當幼稚園は諸先生のあらゆる方面の御熱心な御研究に依り私の負はなければならぬ部分までも何かご御配慮戴きますので常に荒れた庭はなつて居ないのであります。

既に今春季休業中には小さいながらに組別の煉瓦框の花園も出来ました。蔬菜を主とした丸い菜園にも夫々の味を見せて居ります。四阿舎の蔓バラも今は一面に茂り美事に花をつけて居ります。

今こゝに是等のものに就きまして只今植付けしてあるもの及び手入れ等のあらましを記す事に致します。

## 一、煉瓦框の花園

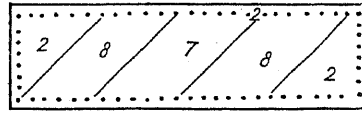
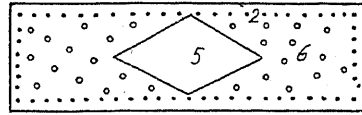
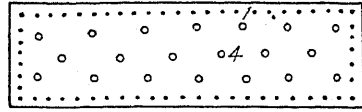
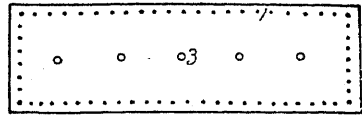
大きさは幅約九十糎、長さ三米で煉瓦を縦積みにならべてあります。約半分は地中に埋めてありますからこれならば幼児が少し位縁に上りましてもすぐ倒れるやうな事はなからうと思ひます。四月始めに出来上りましたのが今の所何の故障もなく居ります。

是が六個並び中に六十糎位の通路があり中央の一路はやゝ廣く一米位になつて居ります。この六個に申しますのは六組からなつて居ります幼稚園であります爲各組一つづつ、を自分のものにして居るのであります。

之に次のやうな草花を植付けて見ました。しかし之は新材料を備へたわけではありませんでもごからあつたものや本校の圃場で栽培しましたものを寄せ集めましたので、が決して最上のものでは認められてないのでありますが、ごかく實際のまゝをのせる事に致します。

### 草花名

1 モツスフロックス



- 2 アルメリヤ
- 3 小 菊
- 4 フランズギク
- 5 スキートピー
- 6 有禪菊
- 7 マーガレット(黄色)
- 8 美女撫子

小菊を植込んだものが苗の都合で三個出来ましたが同様の模様でありますから省略しておきます。  
これ等六個の花壇を總括して眺めます時に框は全部練瓦で積んで極めて整然とした感じが現れて居ります。

それに對して縁付のモツスフロックスとアルメリヤを半分／＼になつてゐるこゝ、植込む草花の種類のみならず種類であるこゝ、又その植込みの模様は個々別々になつてゐる事なき統一のこれない感じが致しますが夫々の框を受持たれる方が違ひますので各自の好みによりやむをえない事と思ひます。

さて是等に就きまして今しなければならぬ仕事に致しましては、

一、アルメリヤ

花が終つたものから順次花梗を切り取ります。是は株分に依りまして繁殖させるので種子を取る必要がありません。枯花を長くそのままにおく事は外観上からも植物の爲にもよくありません。花はなくても細い葉の緑濃く又株も段々大きく茂つて來ますので却つて夏季の縁付にはよいものであります。

二、モツスフロックス

是は花梗をいち／＼切るこゝは少し厄介でありますアルメリヤ程に目立ちませす極めて丈夫なものでありますからそのまゝにしても差支へありません。あまり周圍にはみ出るやうになりましたならば適宜その部分を切り取り縁幅を整へる程度でよいと思ひます。

三、スキートピー

幼稚園のこみでありますから花の後の結實の状況を見せるのも意味あるこみでありますから今しばらくそのまゝにして實のかさくに完熟するのを待つてもよいのであります。もしこの必要がなければ取捨して之に代るべきものを植付けます。秋の用意としてサルビヤが適當かと思ひます。苗床又は小鉢に準備されて居りますものを株間三十厘米位をおいて植付け致します。

四、有禪菊、菊

是等菊科のものには菊虎キクヌキいふ蝨に似た害蟲がつくこみがありまして折角丹精してゐる芽先を食ひ切る事がありますから早く見付けて取るこみ又砒酸鉛の溶液を撒布するこみが必要であります。

砒酸鉛

六十グラム

カゼイン石灰

十五グラム

水

二十リットル

砒酸鉛、カゼイン石灰共にメリケン粉によく似た白い粉末でありまして毒劑でありますから決して幼児の遊ぶ近くにおきざりにすることなくよく仕末する事を忘れてはなりません。前二者を布袋に入れ適量の清水の中に振り出せば直ぐ溶けまして白色の溶液が出来上ります。之を噴霧器に入れて食害されさうな部分にかけておけばよいのであります。

次に菊を植えた框には一週一回位薄い液肥を施すこも必要であります。

五、マーガレット

花が終りました後それ丈を切り取りまして縁濃い葉丈にするのも夏の氣分を現はしてよろしく又取り除いてサルビヤを植付けておくのも又よいのであります。

以上で大體の手入を申しましたが尙雨期の仕事としては雑草をよく取るこみ、又いづれの花弁にもつきやすい蚜蟲アブラムシの驅除を怠らない事であります。この蚜蟲驅除劑としては普通デリス石鹼が用ひられて居ります。

デリス石鹼

六十グラム

水

十八リットル

清水中にデリス石鹼の粉末を入れよく混ぜますこみ二十

分にして噴霧器で之は蟲體に充分かけてやります。

二、丸い分

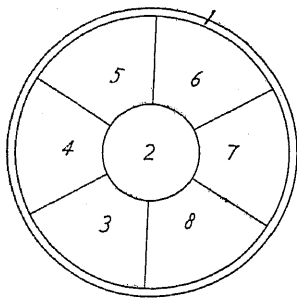
蔬菜名

1 縁植 (玉イブ)

(キ)

2 ベニバナイン

ゲン



3 キヤベツ

4 ツルナ

5 トマト

6 チヨロギ

7 ホウレンサウ

8 草苺の豫定

今年は時局柄蔬菜をこの御注文でありましたので大體蔬菜を主として植付けました。

周囲の玉イブキは前により植ゑてありましたまゝを利用致しましたので蔬菜になつて居りませんが新に作るにすればこの部分にはバセリなき適當かと思ひます。

このうちキヤベツは比較的手数を要します蔬菜でありますので幼稚園の畑には少しさうかまの氣がかりもありました。そして各組一區劃づゝ受持つことにしてその管理の仕方方を傳へ毎日見廻ることにして居ります。只今外葉は相當の勢で擴がり中にも追々結球して居ります。

一、キヤベツ

手入れとしては青蟲、夜盜蟲の幼蟲がつき葉を食害しますので毎日の捕殺は申す迄もなく雨の時間には砒酸鉛溶液の撒布を三回位行ひます。

そして月末にもなりまして相當の結球を致しましたなら

ば收穫をしなければなりません。雨期のことでありますから餘り長くおきますと上の方に割目を生じて來ます。

二、トマト

狭い區劃のことでありますから必ず一本立せまして支柱を伸ばし脇芽は全部取除くやうに致します。

莖は伸びるに従ひ常に支柱にしばりつけて行くことであります。

又この雨期にはよく縮葉病などの病氣のつく事がしばしばありますので根本に木灰を敷くとかボルドウ液の撒布を行ふことが必要であります。

ボルドウ液を作りますには粉末ボルドウを申しまして藍色の粉末になつたものを求めまして用ひるのが便利であります。普通三斗式から四斗式の濃度のものを使用して居ります。

四斗式ボルドウ液

粉末ボルドウ 六百七十五グラム

清 水 十八リットル

製法は砒酸鉛液の時と同様でありまして使用法も同じく噴霧器を用ひます。

尙病氣のきざしが見えました場合には早くその株を抜き取り焼却することにあります。又この株を扱つた手、鉢等は必ず洗つて次の健全な株にうつさないやう注意致します。

す。

### 三、ツルナ

別に手入を申す程のことはありませんでもうこの頃から芽先を収穫してよいのであります。空地がありますならば今から播種しましても夏末頃までには収穫が出来るやうになります。

### 四、ベニバナインゲン

是は蔓性種でありますので支柱を立てます。長さ一米半程の篠竹をしっかりと立込み中央に一本ガラ竹のやうな太いものを立て篠竹の先をまとめて屋根形にこの中央にしばらくつけますと倒れないやうな丈夫なものになつてよいかと思ひます。

### 五、ホウレンサウ

是は昨年播種したものでありまして採種するために残してあります。雌雄異株でありますから雄株は抜き取り雌株丈にして種子の完熟を待ち取入れます。

尙この外に空地がありましたならば草莓の苗を植付けます。この雨期に致しますのが最も活著がしやすいのであります。それには今親株から無数に出て居ります匍匐枝の内本に近い一、二節を取りまして株間十五糎乃至二十糎をおいて植付けておけばよいのであります。この匍匐枝の植付けは七月まで續けて行ふ事が出来るのであります。苺苗養

成に當りましては乾燥を最も忌むものでありますからこの梅雨の時期が最良であるのであります。七月にもなりますとこの乾燥と高温とを防ぐために日中は日除をする必要があり又あまり乾きます時には灌水しなければなりません。

## 會 八 月 號 休 刊

本誌八月號は休刊し、九月に於て、八、九  
兩月號を合冊發刊いたします。

昭和十四年七月

日本幼稚園協會